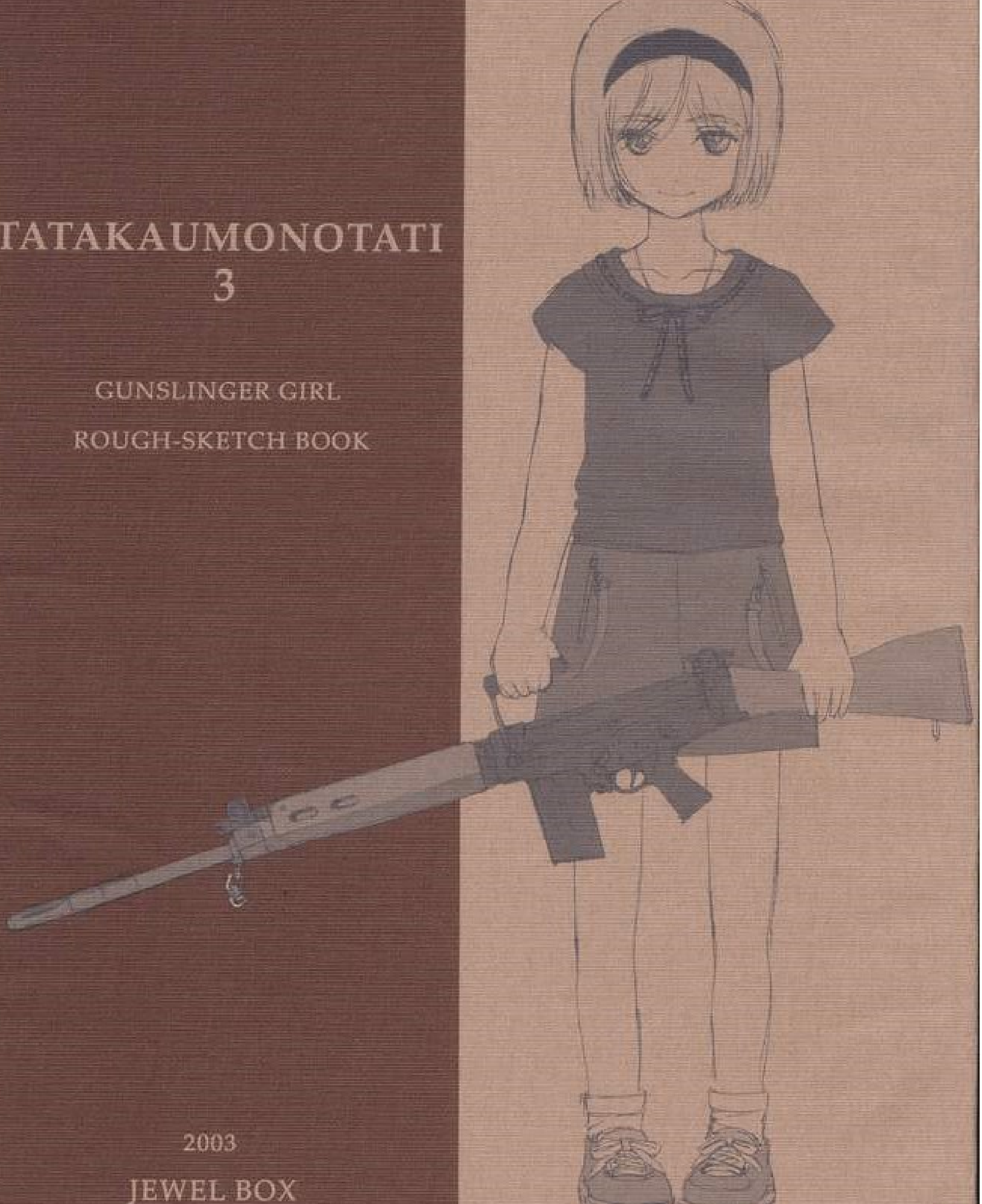
# TATAKAUMONOTATI
# 3

GUNSLINGER GIRL

ROUGH-SKETCH BOOK



2003

JEWEL BOX

TATAKAUMONOTATI 3

GUNSLINGER GIRL ROUGH-SKETCH BOOK

相田裕





こんにちは相田裕です。今回は筆者が月刊「電撃大王」誌上で連載している「GUNSLINGER GIRL」に関するラフスケッチ本です。ほとんど時間がなかったので写真と文書でお茶を濁しておりますが、どうぞお楽しみください。

なにぶん急ごしらえの本なので本文中の記述ミス等ありましたらご容赦ください。銃器に興味がない方にはつまらない内容となっておりますが、銃の美しさが多少なりとも伝わりましたら幸いです。





## FN FAL ASSAULT RIFLE

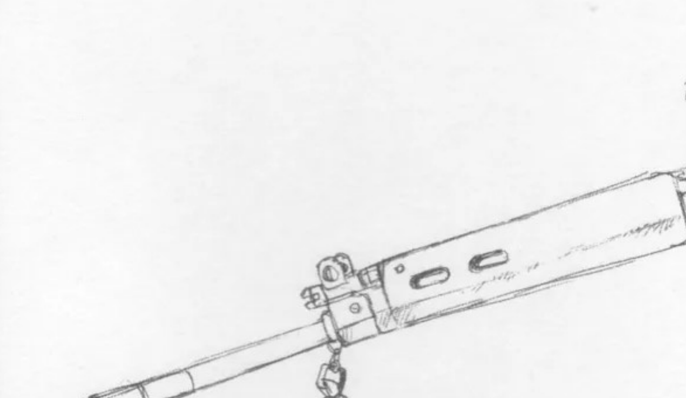
FN(ファブリック・ナショナール )SA./ベルギー
7.62mm×51（20発）
1060mm/4250g

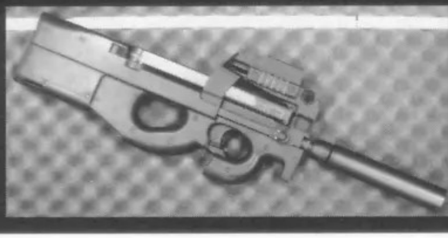


# ヘンリエッタ /FN FAL

劇中ではFN-P90を使っているヘンリエッタですが、実はFALのような大きなライフルを使いたがっているかもしれません。
「308（さんまるはち）フルオートライフルとマグナムのピストルが欲しいんですっ」とか言ったりして。（左頁へ）





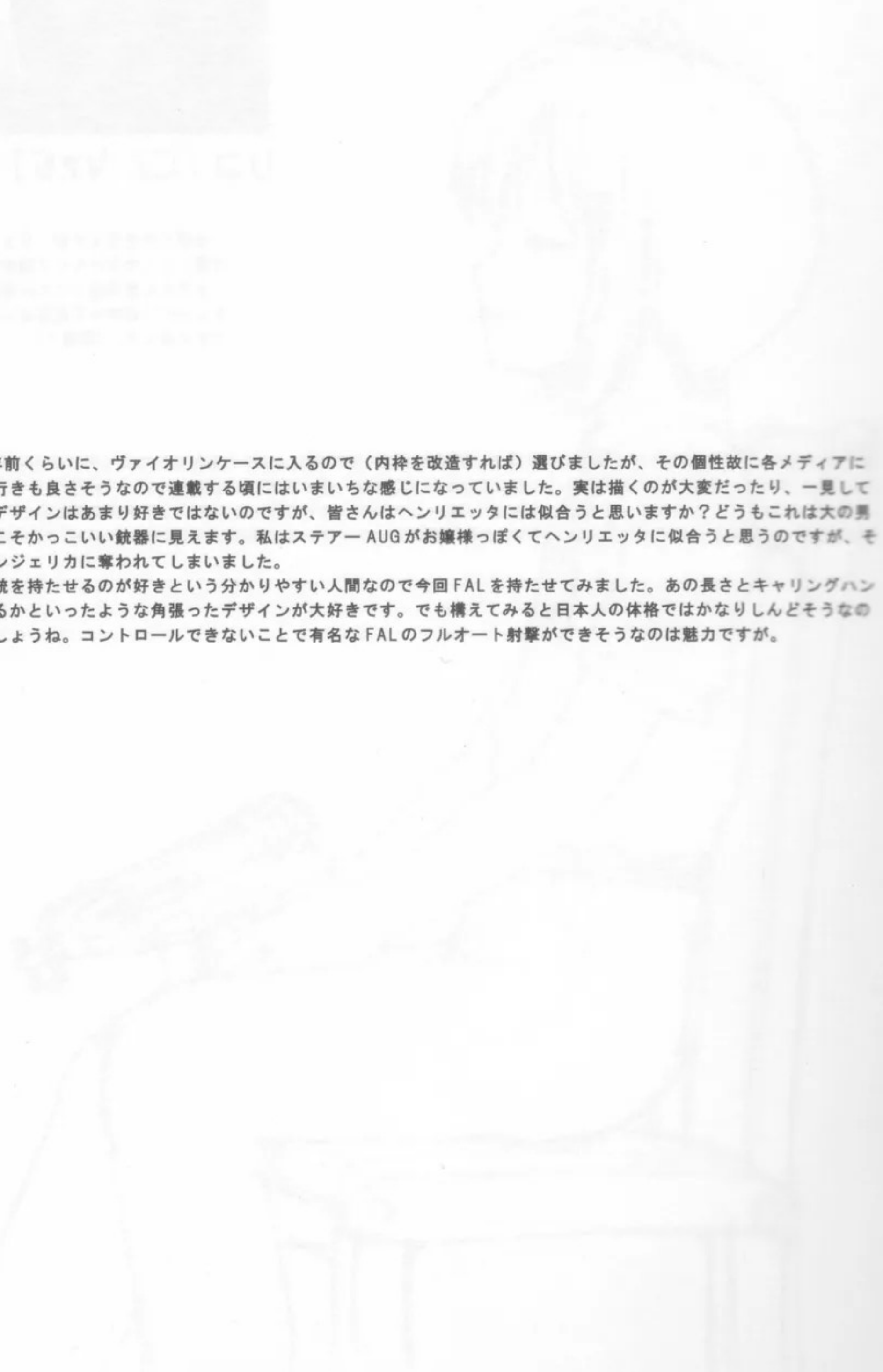




## FN P90 SUB-MACHINE GUN

FNハースタル SA./ベルギー

5.7mm×28（50発）
500mm/2800g



FN P90は連載開始１年前くらいに、ヴァイオリンケースに入るので（内枠を改造すれば）選びましたが、その個性故に各メディアに登場し、トイガンの売れ行きも良さそうなので連載する頃にはいまいちな感じになっていました。実は描くのが大変だったり、一見して銃に見えなかったりするデザインはあまり好きではないのですが、皆さんはヘンリエッタには似合うと思いますか？どうもこれは大の男が抱え込むように構えてこそかっこいい銃器に見えます。私はステアー AUG がお嬢様っぽくてヘンリエッタに似合うと思うのですが、それはもう一人のお嬢様アンジェリカに奪われてしまいました。

自分は女の子に大きな銃を持たせるのが好きという分かりやすい人間なので今回 FAL を持たせてみました。あの長さとキャリングハンドル、人間工学なんて知るかといったような角張ったデザインが大好きです。でも構えてみると日本人の体格ではかなりしんどそうなので義体が使うのは大変でしょうね。コントロールできないことで有名な FAL のフルオート射撃ができそうなのは魅力ですが。





## CZ Vz61 SUB-MACHINE GUN

チェスカー・ゾブロヨフカ・ウヘルスキー・ブロドa.s../チェコ

7.65mm×17（20/10発）
517mm/1280g





# リコ/CZ Vz61 スコーピオン

連載で未使用ですが、Ｃｚ７５がアニメスタジオに貸し出し中なのでＣＺ繋がりのスコーピオンを。
もともと第９話でリコに使わせようかと思っていましたが、使用する銃器をころころ変えたくないのでやめました。（左頁へ）







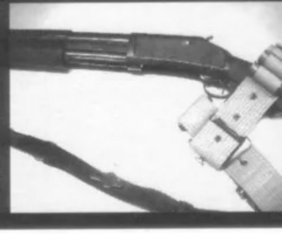
## SVD SNIPER RIFL

イジェマッシ / 旧ソ連

7.62mm×54R（10発）
1220mm/4300g

SVDドラグノフを公社が使う必然性がないことは重々承知しています。ロシア製だし戦場でロシア軍のように使わなければあまり意味がないことも。銃器の専門家ならば絶対「ノー」と叫ぶことでしょう。しかし私は漫画家なので、キャラクターに似合っている考えればリアリティを廃してまで「ゴー」と言えるのです。リアリティとエンターテイメントはしばしば対立します。ドラグノフを出すたびに苦しいなあと思っていますが、それでもCz75とドラグノフは洗練されたデザインと独特の禍々しさがリコのキャラクターにぴったり合っていると信じています。





## WINCHESTER M1897

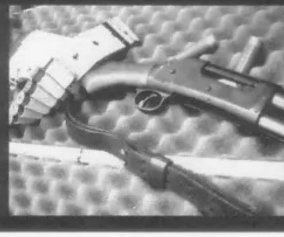
ウィンチェスター / アメリカ
12-gauge（5発）
?/?



# トリエラ /WINCHESTER M1897 "トレンチガン"

すいません。まだ劇中で一度も発砲していません。ストーリーを考えてからアクションシーンを考えるのでショットガンを撃てるシーンにトリエラがなかなか巡り会えないんです。（左頁へ）



　どうして骨董品のトレンチガンなのか。やはりトリエラにぴったりだと感じたからです。銃剣が付くショットガンでとてもスマートなフォルムのこの銃はトリエラの過激さとスマートさがよく出ています。ストーリーにアクションシーンの頁が食われてしまう一話完結型の連載では難しいのですが、いつかトリエラにこの銃で思う存分暴れて欲しいものです。

　トリエラが同人誌で登場した時使用していたグルカナイフはどうやら強烈なインパクトだったようで、今でも彼女のイラストにグルカを描いてくださる方がいます。連載にあたってどうしようか迷ったのですが、ひとつのキャラに複数のエモノを与えるのはあまりよくないので刃物使いの属性は銃剣程度に抑えました。トレンチガンとＰ２３０っていう対極っぽい武器を与えたのは気に入っています。





## HK MP5K-PDW SUB-MACHINE GUN

HK（ヘッケラーアンドコッホ）GmbH./ドイツ

9mm×19（20発）
603mm/2785g



## クラエス /HK MP5K-PDW

戦う機会がほとんどないクラエスなので今のところ回想の中でしか銃を手にしていません。HK VP70はやはり貸し出し中なので今回はもうひとつのMP5でいくことにしました。（左頁へ）





今回写真を入れられなかったＶＰ７０は実際は大変評価の悪い銃であり、バイオハザードで最近有名になったりと、問題の多い銃です。が、もちろんクラエスにぴったり（以下略）。フォルムがどことなくお嬢様っぽく感じるのは私だけでしょうか。そしてクラエスに似合うと感じるのは。もちろん、実用主義の軍人、ラバロ大尉がＭＰ５はとにかくＶＰ７０をクラエスに与えるわけがないというのは苦悩の種でした。

クラエスは連載開始時はそれほど重要キャラクターというつもりはなくて、トリエラのルームメイト程度の気持ちで考えていたんです。それがこうして専用エピソードまで持つに至って嬉しい誤算です。ラバロ大尉とのエピソードは２巻の中で一番気に入っています。今はどこか冷めているクラエスが昔は純情な義体だったというのが。

そうそう彼女は私の仕事の中で初めての眼鏡キャラで、苦労もありましたが。おかげで眼鏡を描くのが好きになりました。







## STEYR TMP SUB-MACHINE GUN

ステアー・マンリッカー AG./ オーストリア

9mm×19（15発）
270mm/1300g



# アンジェリカ /STYER TMP

８話でアンジェリカが組んでいたのはステアーＡUG。今回はその兄弟分のTMPを描きました。お兄さんと比べると案外不遇な銃ですが。私は好きなです。いずれ連載で登場させたいと思います。（左頁へ）







## STEYR AUG ASSAULT RIFL

ステアー・マンリッカー AG./オース

5.56mm×45（30発）
797mm/3975g

　ステアーAUGは奇抜なデザインで有名ですけれど、持ってみると構えやすくて驚きました。銃のデザインは完成されているようでまだ発展の余地があるのですね。自分は少し保守的なのか最新の銃器の未来的なデザインは少しついていけなさそうですけど、それもいずれは慣れてしまうのでしょうか。
　アンジェリカは同人誌時代のメインキャラだったのが、連載では少し脇役に回ってもらいました。彼女のようなおっとりさんが入り込む余地があまりなかったので。おっとりした義体ばかりでは３２Ｐの話がつくれないので、クラエスなどとバトンタッチした形です。「パスタ」のお話は連載の流れの中に少し入れ急いでしまいましたが公社の大人たちが描けたのでよかったです。マルコーとパトリツィアのエピソードはアンジェのエピソードと並行する裏メインだったのですけど、頁があまりさけなくて消化不良に終わってしまい残念です。マルコーの過去をもっと伝えたかったのですが。





## SIG SAUER P229 PISTOL

ザウエル・ゾーン GmbH./ドイツ

.357SIG（13発）
180mm/865g



# エルザ /SIG SAUER P229

エルザの銃は劇中では P228 だったのですがアニメ版では .357SIG 使用の 229 に変更することにしました。他にもアニメ化にあたって細かい変更をしています。（左頁へ）





私は話を考えるときに、シーンが先にあったり、キャラクターが先にあったり、テーマが先にあったりと様々なのですが、４話と５話はタイトルのイメージが最初に浮かびました。「～の～」にしたかったのであのようなタイトルに決まり、シリーズの構成上必要なテーマを配置していきました。本当はもっとミステリ調（といっては言いすぎですが）の雰囲気にしたかったのですが、テーマを前面に出す結果になりました。確か編集との打ち合わせのときは「殺された義体の消えた手首の謎」みたいなことを言っていた気がします。どんな話になったことでしょうね（笑）

エルザはほとんど顔も見せていないにもかかわらず、その生き様からささやかながら支持していただけているようで嬉しいです。彼女のおかげで４、５話はいいお話にすることができました。





## AK47 ASSAULT RIFLE

イジェマッシ / 旧ソ連

7.62mm×39 (30発)
874mm/3840g



# ペトロシュカ /AK47

　頁が丁度余ったので同人誌時代のキャラクターからペトラを。正確には同人版のさらに外伝キャラなのですが、なかなかの人気者で、「連載には登場しないのですか？」と良く聞かれます。あの頃とは公社の設定も変わったし、似たようなキャラが既に出ているので正直出しにくい子ではありますが、今のところ未定ということで。

　今回久しぶりにペトラを描くにあたり、ただのキリっとした子ではトリエラやクラエスとかぶるので、同人の頃より幼めにしてみました。身長はヘンリエッタより高くてリコより低いくらい？それでもって軍隊ルックでAKというアンバランスさはいかがでしょう。こんな格好の女の子がAK持って街を歩いていたらすぐに警官が飛んできそうですね。（左頁へ）



ペトラのデザイン話の続きです。やはり描いてみると他のキャラと色々かぶるので、いっそのことブロンドとかプラチナブロンドはどうでしょうか。イメージが黒髪で固まってるのでしっくりくるかは分かりませんが。トレードマークのネクタイも連載にあたってトリエラに奪われてますね。いっそのことトリエラを師匠と崇めてる義体で、格好から真似ているというのはどうでしょうか（笑）

同人誌ではMP5だったペトラの武器はAKに変更しました。ロシア人ならやはりこちらの方がいいでしょうね。今でも半人前ですが、同人誌を描いてた時は銃に関して素人もいいとこで、AKの美しさもさっぱり理解していませんでした。映画でよく見る敵役の銃くらいの認識だったのですが、いつのまにかかっこいいと思えるようになっていました。




いかがでしたでしょうか。作業時間が２日しかとれなかったので鉛筆絵に手元にあったトイガンの写真をあわせて間に合わせの本にしてみました。絵にグレー着色もできず、きれいな写真も撮れずに申し訳ありません。いつかこういう形式の本を丁寧に作ってみたいです。

９８年から同人誌で始めたガンスリも商業連載になり、今秋にはアニメ化も予定されております。この作品がここまでこられたのもイベントに足を運んでくださる皆様のおかげです。ありがとうございました。

アニメに関しては出来る限り協力しておりますが、私が実際に作るわけでもないし、資金を提供しているわけでもないので何かをしたくても基本的に傍観しているしかないというのが現状です。原作者としてこういうアニメになってほしいというイメージは無数にありますが、それが形になることはまず難しいことです。このはがゆいシステムをどうにかしたいと日々考えていますが、それはかなり困難なことでしょう。ひとまず今回はアニメ化していただいたことに感謝して私もガンスリらしいアニメになることを読者の皆さんと共に心待ちにしています。

商業の仕事がどんどん忙しくなってきているので同人活動はWEBサイトと合わせて当面下火になるかと思います。アニメの件で四苦八苦していると、やりたいことを自由にやれる同人のフィールドはとても魅力的なのですが、一番やりたいことは商業活動ですのでそちらを優先したいと考えています。

次回は冬コミかと思いますがその際はまたよろしくお願いいたします。

相田裕

TATAKAUMONOTATI 3
（たたかうものたち）

初版発行　２００３年８月１７日 COMICMARKET 64

発行　JEWELBOX／相田裕

連絡先　http://www.remus.dti.ne.jp/~jewelbox/
jewelbox@remus.dti.ne.jp

TATAKAUMONOTATI 3